

# 行政経営の大綱

～市民とともに京都の未来を切り拓く～

## 基本理念

本計画の6つの「京都の未来像」とそれらを踏まえた27の政策分野における「みんなでめざす10年後の姿」には、市民をはじめとするさまざまな活動主体がそのもてる力を存分に発揮し、いきいきと連携することによって生まれる、豊かで力強いこれからのまちのあり様を描き出している。

このような地域に住むものがみずからの意思と責任でみずからのまちづくりを進める時代にあって、行政は、個人や地域が引き受けることのできない分野を担うことはもとより、他の活動主体と共に汗しながら、地域社会に大きな力を生み出し、その豊かさを下支えするような存在とならなければならない。

そのための行政経営のあり方として、変化に迅速、的確に対応するための柔軟性、公務遂行の責任を果たすための職員の専門性を追求し、かつ持続可能な財政を構築するために、財政構造の着実な改革を果たすとともに、市民に一層開かれ、市民とともに京都の未来を力強く切り拓く市役所づくりを進めていく。

## 現状・課題

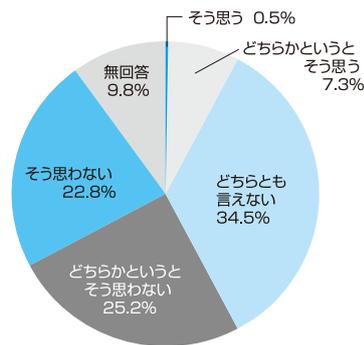
大都市でいち早く「市民参加推進条例」を制定し、市政やまちづくりへの市民参加を進め、成果を挙げてきた。しかしながら、多くの市民が市民参加を身近なものとして実感するまでには至っておらず、もっと多くの市民に参加の輪を広げていく取組を推進する必要がある。

行政評価条例に基づき、全国的にも先進的と高く評価される行政評価の取組を進めているが、本計画の政策や施策に合わせた、さらなる改善が必要である。また、開かれた市政の前提である情報公開を引き続き推進し、説明責任を果たす必要がある。

京都市は、市税収入が他の指定都市と比べて少ないなど、もともと財政基盤が脆弱なうえ、三位一体改革<sup>※</sup>以降の全国平均を上回る地方交付税の削減、社会福祉関係経費等の義務的経費の増加により財政の硬直化に拍車がかかっている。京都市は、従前の取組の延長線上ではない、大胆な行政改革の取組を行うことで、財政健全化団体への転落を避けなければならない。

## 市民の市民参加に対する実感はまだまだ高まっていない

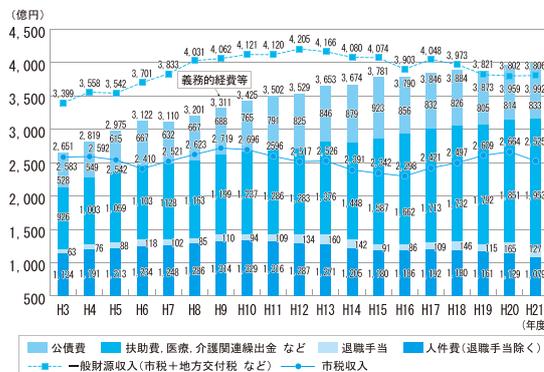
Q.市の方針や仕事の内容について、企画段階から市民が意見を言う機会が十分ある。



資料:京都市市民生活実感調査(平成22年度)

## 硬直的な財政

[市税収入、一般財源収入、義務的経費等の推移]



資料:京都市

※ 三位一体改革：国庫補助負担金，地方交付税，税源移譲を含む税源配分のあり方の3つを一体的に見直す改革

社会情勢の変化や多様な市民ニーズに柔軟に対応できる組織体制の編成がつねに求められている。また、職員が法令遵守はもとより、「市民感覚」をつねに意識しながら、創造的かつ主体的に職務を遂行するという意識改革や組織風土の改革を一層推進する必要がある。

## 財政健全化に早くから着手

	「平成の京づくり」推進のための市政改革大綱	京都新世紀に向けた市政改革行動計画	京都新世紀市政改革大綱(取組期間：平成13～17年度)	市政改革実行プラン等(取組期間：平成16～20年度)	合 計
期 間	平成7～9年度	平成10～12年度	平成13～15年度	平成16～20年度	
経費節減(事務事業の見直し等)	約86億円	約133億円	約106.6億円	約449億円	約774.6億円
公共工事のコスト縮減	—	約112億円	約102.3億円	約182.7億円	約397億円
職員数	1,246人(7～12年度)		1,100人	1,301人	3,647人
財政効果	未算定	約124.4億円	約198.5億円	約329.6億円	約652.5億円
合 計	約86億円	約369.4億円	約407.4億円	約961.3億円	約1,824.1億円

資料:京都市

## 基本方針

### 1 参加と協働による市政とまちづくりの推進

市民の知恵と力を生かした市政を実現するため、市民の積極的な市政への参加と、市民と行政との協働を進めるとともに、「自分たちのまちは自分たちでつくっていく」という市民主体のまちづくりを進める。

- (1) 市民が主役の市政を進めるため、政策の企画、実行、評価の各段階において、市民が参加する機会を一層拡充する。また、市民と行政が、お互いの特性をもちより、協働して新しい価値を生み出す、協働による市政運営をさらに進める。
- (2) 市民主体のまちづくりを進めるため、市民の自治意識の向上と、市民・地域団体・NPO・民間事業者等によるまちづくり活動への支援、相互連携のしくみづくりを推進する。
- (3) 地域のことは地域で決めることのできる自治の確立に向け、国からの事務権限と財源の移譲とともに、抜本的な大都市制度の改革を国に対し積極的に提案・要望する。
- (4) 市民と行政の最も身近な接点となる区役所において、個性と魅力ある地域づくりの拠点として、地域の主体的なまちづくり活動を支援する。また、市民の知恵と力を生かすことができるよう、情報の受発信機能を強化するとともに、さまざまな活動主体と協働した取組を進める。

### 2 情報の公開・共有と行政評価の推進

情報の公開、提供を推進し、市民と情報を共有するとともに、政策、施策、事務事業等の評価を行う行政評価をさらに充実させることにより、市民への説明責任を果たし、市民に身近で一層開かれ、効果的かつ効率的な市政を推進する。

- (1) 徹底した市民目線に立って、市民の求める情報を公開するとともに、市政に関する情報を政策検討のできるだけ早い段階からの的確に提供することにより、市政の一層の「可視化」を図る。
- (2) 市民との情報の共有を図るため、情報の公開、提供を推進するとともに、市民の求める情報がより得やすくなるよう、ICT(情報通信技術)の戦略的かつ計画的な活用を促進する。
- (3) 時代の変化等をつねにとらえ、政策評価、事務事業評価をはじめとする各評価制度間での連携など、市役所がみずからの仕事を絶えず点検・評価する行政評価の取組をさらに充実させることにより、本計画の推進をはじめとした効果的かつ効率的な市政を実現する。

### 3 持続可能な行財政の確立

時代の変化等をつねにとらえながら、公民の役割分担を絶えず見直し、最適な市民サービスを提供する。また、低成長・少子高齢化時代にあっても、市民の安心・安全な生活をしっかりと支え、将来にわたり必要な施策、事業を実施していくため、これまでの財政構造のあり方を根本的に見直す。

そのために、歴史都市である京都の都市特性を踏まえつつ、京都の未来に責任をもち、将来の世代に負担を先送りしないという観点から市債残高を減少させ、コンパクトで機動的であるとともに、景気変動等にも耐えうる足腰の強い財政の確立を図る。

また、持続可能な行財政を確立することは、都市の成長のための戦略と財政構造の改革が一体となって初めて可能となるものであり、本計画に掲げる政策の推進と財政構造改革を車の両輪のごとく取り組んでいく。

- (1) 市政の隅々まで市民感覚を徹底するとともに、民間の経営感覚・コスト意識を積極的に取り込み、効果的かつ効率的な市政を構築する。
- (2) 財政構造の改革の推進に当たっては、歳入歳出の主要な構成要素である「公共投資」、「人件費」、「社会福祉」、「市税をはじめとする歳入の確保」の4つの分野を対象として、財政運営に当たっての目標を設定し、その目標を達成するための計画を策定して、改革の取組を進める。
- (3) 財政を安定させるため、大都市特有の財政需要を踏まえた地方交付税の確保や税源移譲等を国に対して、また、府市間の役割分担に応じた適正な財源の確保を府に対して働きかける。
- (4) 京都市の財政の実情、改革の進ちょく状況等についての財政情報を、分かりやすく発信し、市民と共有したうえで、財政構造の着実な改革を成し遂げる。

### 4 一層信頼される市役所づくりに向けた組織の改革と人材の育成，市役所庁舎の整備

時代や市民のニーズ、新たな課題に的確かつ迅速に対応し、最少の経費で最大の効果を発揮することができる組織改革を進める。

あわせて、すべての職員が、創造的かつ主体的に職務を遂行し、仕事に対する意欲を高め、さらには「みずからが市政を改革・創造する」という意識をもつなど、新たな組織文化を根付かせ、市民に一層信頼される市役所づくりに努める。

- (1) 多様な市民のニーズや新たな課題等に対応し、最適な市民サービスを提供するため、縦割り組織の弊害の解消など、簡素で効率的な組織体制の整備を進める。
- (2) すべての職員がその責務を全うできるよう、高い専門性と広い視野をもち、仕事に対する意欲と主体性を高めるしくみづくりを行い、これからの市政を担う人材を育成する。また、市民との信頼関係の基礎となるコンプライアンス<sup>※</sup>を徹底する。
- (3) 市民の安心・安全を守る災害対策の拠点となり、市民の市政参加と市民主体のまちづくりを進めるのにふさわしい機能等を備えた市役所庁舎の整備を図る。

※ コンプライアンス：市民に信頼される行政運営のために、法令に従い、これを確実に守るという基本を徹底するとともに、つねに「法の一般原則」に立ち返り、創造的かつ主体的に職務を遂行すること。

# 計画の推進

「共汗型計画」として策定する本計画を推進するうえでは、市民、NPO、企業、大学など京都のまちづくりを支えるすべての主体と行政とが計画に描く目標とともに、その達成状況をしっかりと共有し、役割分担と協働によって、目標の実現に向けた努力を積み重ねていくことが重要である。同時に、社会経済情勢の変化等に柔軟かつ的確に対応し、計画を進化させる必要がある。

こうした観点の下、本計画に掲げた政策の着実な推進に向けて以下の取組を行う。

## 1 計画に掲げた政策の推進

### (1) 「実施計画」の策定、推進

本計画の実効性を確保するために、本計画の下位計画として、重点戦略及び行政経営の大綱を推進するための個別具体的な事業やスケジュール、目標等を明示した5年程度を計画期間とする「実施計画」を策定し、推進する。

また、インターネットの活用などによって、その進ちよく状況を定期的に公表する。

### (2) 「各区基本計画」、「都市計画マスタープラン」等との連携

本計画と同列・相互補完の関係にある「各区基本計画」と一体として政策を推進する。

また、本計画に基づく分野別計画として、「都市計画マスタープラン」をはじめ分野ごとの計画等の策定又は必要に応じた見直し等を行い、分野ごとに個別・具体的な取組を推進する。

## 2 計画に掲げた政策の点検

### (1) 政策評価制度の実施

政策評価制度によって、政策の目的がどの程度達成されているかを毎年度評価する。

また、評価結果の市会への報告、市民への公表を適宜行うとともに、より効果的な市政の運営や政策の企画・立案に活用する。

### (2) 点検委員会の設置

政策の進ちよくが一定見られる時期に、市民も参加する点検委員会を設置し、本計画の達成状況の総括及びその間の社会経済情勢の変化に応じた政策の見直しの必要性について点検を行う。

### (3) 実施状況の報告、公表

「京都市会の議決に付すべき事件等に関する条例」に基づき、本計画の実施状況を毎年度、市会へ報告し、市民に公表する。

## 3 国や関係自治体との連携

地域主権時代にふさわしい地方自治の確立をめざし、国への提言に取り組むとともに、京都府とのより一層の連携強化と政策の融合を図り、府市協調の下、効率的、効果的に政策を推進する。

また、他の政令指定都市や近畿圏、京都市圏における周辺自治体との広域的な政策連携によって、政策を一層効率的、効果的に推進する。

計画の構成

計画の位置付け

計画の背景

都市経営の理念  
京都の木本像

重点戦略

政策の体系

■ ころおい

■ 活性化

■ すこやか

■ まほうづくり

行政経営の大綱

計画の推進

参考

■ 策定プロセス

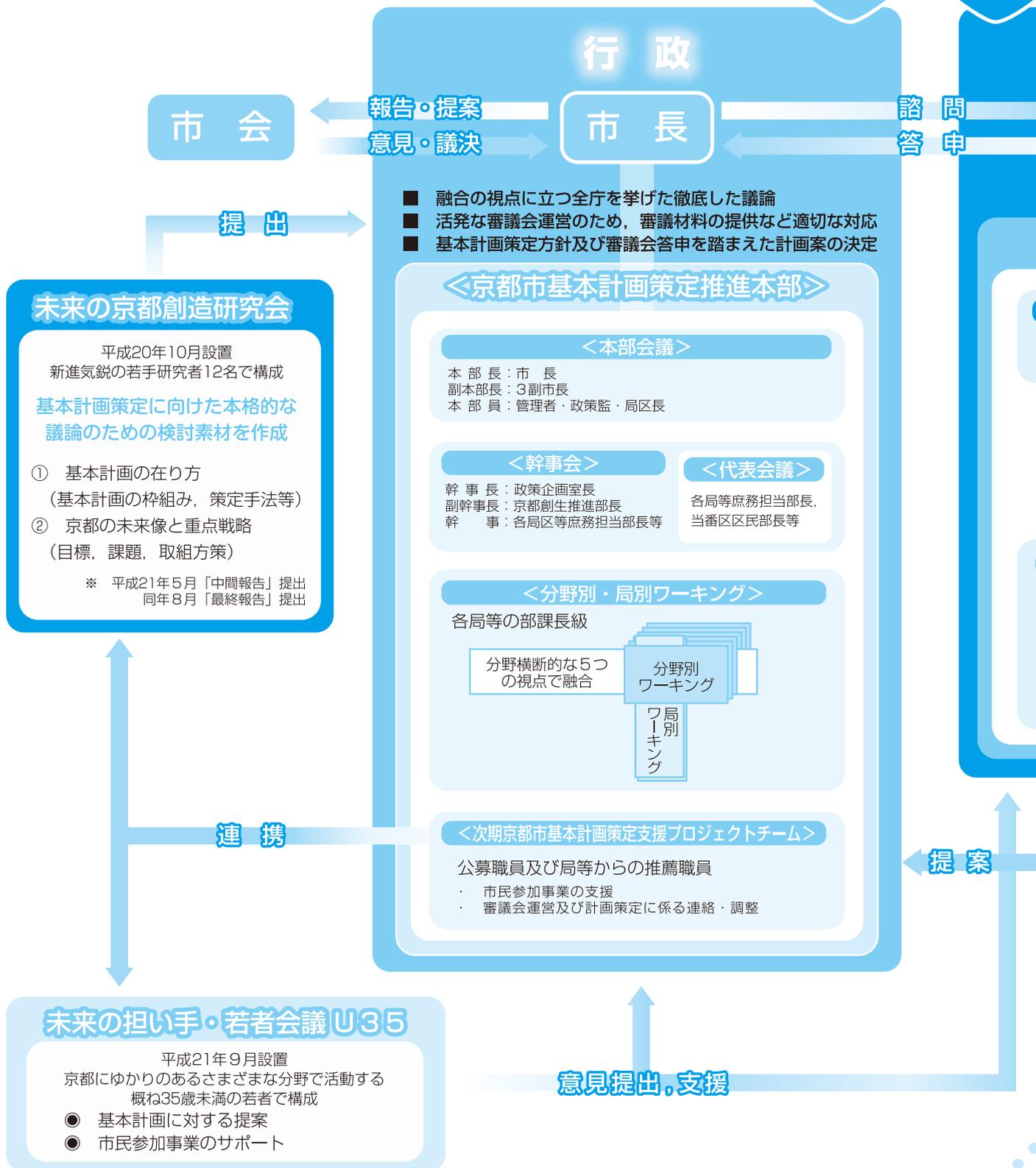
■ 関連資料

# 参 考

## 策定プロセス

# はばたけ未来へ！ 京プラン (京都市基本計画) の策定体制

徹底した職員参加



計画の構成

計画の位置付け

計画の背景

都市経営の理念  
京都の未来像

重点戦略

政策の体系

■ いるあひ

■ 活性化

■ つややか

■ まじりへり

行政経営の大綱

計画の推進

参考

■ 策定プロセス

■ 関連資料

# 徹底した市民参加

## 審議会

会長

■ 徹底した議論で広く市民意見を吸収し、知恵と汗で練り上げる

### <京都市基本計画審議会>

#### <総会>

全員（計70名：学識者15名、各種団体・NPOの代表者等34名、各区基本計画策定委員会等の代表11名、行政機関2名、公募8名）

#### <融合委員会>

正副会長，正副部会長等15名

- 京都の未来像と重点戦略を検討
- 計画の全体調整

#### <共汗部会>

正副会長以外の委員（各部会16，17名）

- うるおい部会
- 活性化部会
- すこやか部会
- まちづくり部会

● 政策の体系を検討（活性化部会は行政経営の大綱を含む）

広範な市民参画によって計画を検討

- 若者提案事業「私と京都のマニフェスト」  
「京・未来予想図」
- 「きょうと絵画・絵日記・ポスター」
- パブリック・コメント（第1次案，第2次案）
- シンポジウム  
「未来の担い手・若者会議U35 企画・運営」  
どうすんねん京都!？（平成22年5月）  
京都の未来を考える 食べ物会議（平成23年1月）
- 1万2千人市民アンケート
- 市政に関係する団体からの意見聴取
- 関係行政機関等からの意見聴取
- 基本計画の名称募集
- 基礎調査（みんなで未来の京都を徹底して議論するための基礎資料）
- 市民きょうかんインタビュー  
（職員が街頭で市民の生の声を聴取）

### 職員提案募集

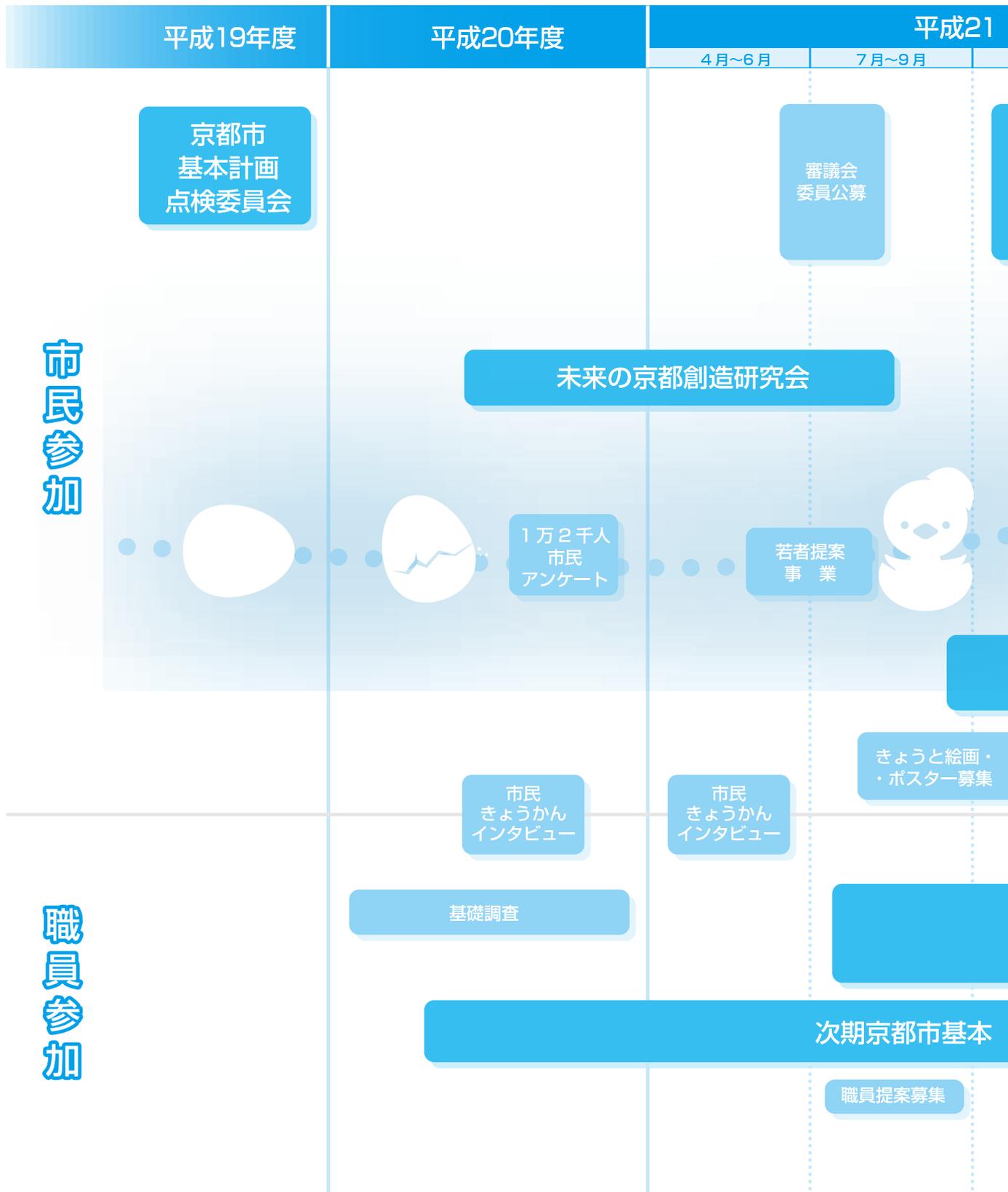
未来像，重点戦略をテーマに募集

### 各区基本計画の策定

- 基本構想に基づく各区の個性を生かした魅力ある地域づくりの指針となる計画
- 各区において，基本計画策定委員会等を設置し，計画を策定

連携

# はばたけ未来へ！ 京プラン (京都市基本計画) 策定までの取組



市民参加

職員参加

計画の構成

計画の位置付け

計画の背景

都市経営の理念  
京都の未来像

重点戦略

政策の体系

■ しくみ  
■ しくみ

■ 活性化

■ さちやか

■ まちづくり

行政経営の大綱

計画の推進

参考

■ 策定プロセス

■ 関連資料



# プラン策定に係る主な取組と策定過程への参加者からの共汗メッセージ\*

※ 共汗メッセージ：本プラン策定に携わった方のプランや策定過程の取組に込めた思い

## プラン策定の流れ

### 京都市基本計画点検委員会

(平成19年6月～19年12月)

基本計画に掲げた政策の推進状況を点検するため、学識者や事業者、市民公募委員の計22名で構成。基本計画（第1期）を総括

### 次期京都市基本計画策定支援プロジェクトチーム

(平成20年9月～23年3月)

庁内公募、局等からの推薦職員等で構成。計画策定に係る調査研究や、未来の担い手・若者会議U35とともに市民参加事業を企画・運営



#### 京都市政の10年に一度の一大事業に関わらせていただいたことに感謝

チームのスタート時には「いつまで続けられるか」と思っていました。終わってみると2年半も活動することになった。「出前パブコメ」での市民の皆さんへの聞き取り、若手研究者の方々との議論、U35との協働などなど、普段の業務にはない貴重な体験をさせてもらいました。京都市政の10年に一度の一大事業。その一端に関わらせていただいたことに感謝するとともに、これからは、計画達成のため自分の職場・職務において頑張っていければと思います。

次期京都市基本計画策定支援プロジェクトチーム 岸根郁朗さん



#### 皆の「思い」が、京都の未来を輝かせるいくつもの光に

次期京都市基本計画策定支援プロジェクトチームメンバーとして活動した2年半、多くの人と議論し、自分たちの思いや考えを出し合い、まとめ、提案してきました。異なる課の市職員や様々な職業の市民の皆さんとの議論はいつも新鮮で楽しく、行き詰まることもありましたが、そのたびに皆で乗り越えてきました。そのような経験を経て育った皆の「思い」は、京都の未来を輝かせるいくつもの光になると確信しています。

次期京都市基本計画策定支援プロジェクトチーム 栃尾恵梨子さん

## 未来の京都創造研究会

(平成20年10月～21年8月)

新たな基本計画の検討の初期段階から、新進気鋭の若手研究者の方々が様々な専門分野の視点と柔軟な発想により、計画の枠組み等の基本的な在り方を検討

計画策定に向けた本格的な議論の素材として、基本計画の在り方や京都の未来像・重点戦略案について平成21年5月に中間報告、同年8月に最終報告を提出

#### 研究会メンバーも共に汗を流していきたい

未来の京都創造研究会でともに検討いただいた研究者の方々とともに、京都市の新しい基本計画が完成したことを喜んでます。私たちがこれからの基本計画の在り方や施策分野ごとの議論を始めてから3年がたちました。研究会報告以後、本格的に計画審議が始まり、計画内容が大きく豊かになっていく様子がわくわくしていました。

私自身も研究会メンバーも、この計画に基づく新たな京都のまちづくりに、共に汗を流すことができると願っています。

未来の京都創造研究会座長 新川達郎さん（同志社大学大学院総合政策科学研究科教授）



## 市民きょうかんインタビュー

(平成20年～22年にかけて7日間実施) 延べ2,731人

新規採用職員等が、10年後の京都のまちに望むことなどをテーマに、直接市民にインタビューを実施

## 1万2千人市民アンケート

(平成20年11月～12月)回収数4,828通 回収率40.2%

市民の生活実感や環境評価、地域とのつながり、京都の都市魅力やイメージ、まちづくりの課題に関する意識やニーズを探るため、18歳以上の市民1万2千人（うち外国籍市民367人）に、郵便でアンケート調査を実施

## 若者提案事業「私と京都のマニフェスト」, 「京・未来予想図」

(平成21年5月～7月) 応募件数607点

概ね15歳以上35歳未満の若者を対象に、夢やそれを実現するロードマップを記載する「私と京都のマニフェスト」、未来の京都を絵画・マンガ等の視覚的手法を用いて表現した「京・未来予想図」を募集

### ●「私と京都のマニフェスト」市長賞作品

#### 2020年の自分

##### 「京都を愛する伝統産業のコーディネーター」

京都のテーブルコーディネーターとして京都の伝統工芸品を使っての食のイベントや、核家族化や生活の洋風化で忘れられつつある五節句（ひなまつり、端午の節句、七夕など）や年中行事、歳時記、それに伴う行事食や設えを今のライフスタイルに合うようにアレンジして、次世代に伝え、生活の中に自然に溶け込んで行くような普及活動を行ってみたい。

京都の日本の世界の家庭に自然に存在する京都の伝統産業をお手伝い、それを目指したいです。

#### 2020年の京都のまちの姿

##### 「伝統産業があふれるまちづくり」

まだまだ縦割り社会の伝統産業界では、他業種との交流が少なく、こういった現状に「横糸」を通したり、伝統産業の「過去」を研究する歴史家、「現在」を追及する商人、「未来」を模索する学生やデザイナーなどの「時間軸」をつなげるシステム作りを、長年に渡ってサポートいただける行政の担当者と共に築きあげたまちになってほしい。

勢いのある伝統産業の都市ー京都ーが、全国のお手本になって欲しいです。

#### 小さな活動が京都全体を取り巻くような大きな波に

食空間コーディネーターとして食卓を介した地域貢献を模索していたところ、京都の伝統工芸品を使ってお節句や歳時記を伝え、今の生活様式にあう使い方の提案をライフワークにしたいと、この意思をマニフェストに込めて応募しました。

古き良きものを保ちながらも変化し、伝統とモダンを上手に融合させていく京都。それに気付いた人たちの小さな活動が京都全体を取り巻くような大きな波に変わっていくことを切に願います。

若者提案「私と京都のマニフェスト」市長賞 湯浅靖代さん



### ●「京・未来予想図」市長賞作品



#### <コンセプト>

京都は古くから道を大切にしてきた街であり、人々の生活は道を中心に営まれてきた。

未来の京では、バスを除く車は走らず、代わりに道は緑であふれる。京都の人々は、再び道によってつながってゆく。



#### 京都の明るい未来像について夢をもって話し合うきっかけに

大人でも子どもでもぼっと見てすぐイメージが共有できるような、シンプルで大胆な提案を考えました。京都の明るい未来像について皆さんが夢をもって話し合う、そのきっかけになれば嬉しいです。

若者提案「京・未来予想図」市長賞 平井陽さん

## 京都市基本計画審議会委員公募

(平成21年6月～7月) 応募者数76人

市民から基本計画審議会委員を公募し、委員70名中男女各4名を選考・委嘱

## きょうと絵画・絵日記・ポスター

(平成21年7月～10月) 応募件数2,556点

保育園・幼稚園児から中学生を対象に、子どもが持つ京都への愛着や夢を世代間で共有するため、京都の未来を描いた絵画などを募集

〈子どもたちが描く京都の未来〉  
(応募作品の一部を御紹介)



「動物園」

保育園・幼稚園の部 市長賞 植村圭達さん



「平和のしるし「大文字」」

小学校1、2年の部 市長賞 中間さや夏さん

どうぶつ いっぱい  
うれしいな!

いつまでも、  
きょうとで、  
「平和のしるし大文字」  
がつづいてほしいです!



「10年後の日記」

小学校3～6年生の部 市長賞 吉井澄佳さん



「伝統と発展する エコ未来京都」

中学生の部 市長賞 大村健人さん

将来は鉄道や道路が  
地下に、地上は自然と  
歴史がたっぷりの  
すてきなまちに!

伝統と発展する  
「エコ未来京都」に!

## 京都市基本計画策定推進本部

(平成21年7月～22年11月)

市長を本部長とする庁内組織。徹底した職員参加の核となるものとして、融合の視点に立つ全庁を挙げた徹底した議論を行い、活発な審議会運営のための審議材料の作成や審議会答申を踏まえた計画案を決定

## 職員提案募集

(平成21年8月～9月) 応募件数44件

職員提案制度の特別企画として、10年後の京都の未来像と実現に向けた戦略をテーマに提案を募集

## 未来の担い手・若者会議U35

(平成21年9月～)

京都にゆかりのあるさまざまな分野で活動する概ね35歳未満の若者で構成。若者ならではの観点から基本計画に対する意見の提案や、策定の過程で取り組む市民参加事業の実施を支援



### 仲間と共有できた時間はかけがえのない宝

基本計画に掲げられた「真のワーク・ライフ・バランス」の提案やパブリック・コメントやイベントの実施など、未来の担い手・若者会議U35の多岐に渡る活動が共汗型計画を生み出した原動力でした。若者会議のメンバーは活動に多くの時間と労力を割いてきましたが、そのおかげで心から達成感を味わうことができました。この仲間と共有できた時間は人生でもかけがえの無い宝。一生涯、仲間の輪を継続させていきたいと思えます。

未来の担い手・若者会議U35議長 松山大耕さん(妙心寺塔頭・退蔵院副住職)

## 京都市基本計画審議会

(平成21年10月～22年11月)

各界各層の方々70名で構成。徹底した議論で広く市民意見を吸収し、知恵と汗で計画案を練り上げ

### 「千年後もいきいきと活躍しているまち」に

基本計画審議会において、私は、京都の1300年の歴史を踏まえつつ、今後千年先を見据えていくという観点で議論を進めてきました。市民の皆様には、是非、京都が「千年後もいきいきと活躍しているまち」となるよう、様々な立場でこのプランの実現に御協力をいただきたいと思えます。

参加と協働を合言葉にして、市民が力を合わせてこのプランを進めていく10年になれば、と考えています。

京都市基本計画審議会会長 尾池和夫さん(財団法人国際高等研究所所長, 前京都大学総長)



### オール京都で未来の京都づくりを

地域の未来を考えるときには、地域に住むひと、働くひと、学ぶひとの新たなニーズを基点に「ありたい姿(ビジョン)」を描き、共有することが大切です。このプランが、行政だけでなく、産業界、文化・学術、NPO、住民等と共に創り上げられたことは、京都のポテンシャルを最大限に発揮することにつながるものと大いに期待しています。

オール京都でビジョンを共有・連携して、未来の京都づくりに取り組んで参りましょう。

京都市基本計画審議会副会長 立石義雄さん(京都商工会議所会頭)



### 「私たちの京都」を自分たちでつくりあげる

この計画は、京都の市民による、京都のまちの姿・なりわい・暮らしを包摂した「まちづくり」への羅針盤です。地球規模での炭素制約のもと、環境と経済が両立した低炭素社会へと転換していかなければなりません。知と美にあふれ、分かち合う暮らしとともに。京都を愛する人々が共に手を取り、私たちと子どもたち、そして世界の子どもたちのために、「私たちの京都」を自分たちでつくりあげてこそ、自治のモデルとなることでしょう。

京都市基本計画審議会副会長 浅岡美恵さん(NPO法人気候ネットワーク代表, 弁護士)

### 融合は市民の共感・共汗を引き出す鍵

キーワードは「融合」。人口減少・少子高齢化と低成長の中で低炭素社会の実現、課題解決に向けた京都の挑戦は、縦割り行政・政策分野を横断的に融合する点にあります。同時代の京都に暮らす者同士、市民の皆さんのパブコメ(=パブリック・コメント)は分野を超えた発想に溢れ、異分野の委員の皆さんも認識を共有、互いに理解し、協働を始めました。若者会議との融合で、真のワークライフバランス実現が課題に登場。融合は市民の共感・共汗を引き出す鍵、京都が変わります。

京都市基本計画審議会副会長、融合委員会委員長 宗田好史さん(京都府立大学大学院生命環境科学研究所(環境科学専攻)准教授)



## うるおい部会の審議過程で大切にされたこと



- ▼ 地域コミュニティが基本
- ▼ 「つながり合う、支え合う、わかり合う」、「多様さを認め合う」
- ▼ 子どもに焦点を当て、10年後の青年たちを主人公に考える
- ▼ 「わたしは環境の一部」であり「わたしは社会の一部」であることから、「わたしは大切にされなければならない」と同時に「わたしは周りを大切にしなければならない」。さらに「わたし自身が動かなければならない、働きかけなければならぬ」
- ▼ マイナスばかりを語るのではなく、「希望の物語」を紡ぎ出す

## 活性化部会の審議過程で大切にされたこと



- ▼ ひとが集まり交流することによって活力が生まれる
- ▼ ブランディング（本当の京都の良さを伝え磨く）
- ▼ 市民が誇らしく思えるまち
- ▼ 子どもに京都の良さを伝える

## すこやか部会の審議過程で大切にされたこと



- ▼ かけがえのないいのちを大切に（自尊感情、死生観）
- ▼ すべての市民が違いをともに認め、支え合う
- ▼ 地域やひととのつながりを重視し、生きる力を育む
- ▼ 市民・地域が支え合い、子どもを共に育む
- ▼ 幼児から大人まで学び、成長する

## まちづくり部会の審議過程で浮かび上がった都市構造の方向



- ▼ 「保全・再生・創造」の枠組み  
京都市基本構想で定められている「保全・再生・創造」の考え方を都市構造の枠組みとして継承しつつ、景観政策を検証・進化させながら、歴史・文化と環境が調和する、コンパクトで個性豊かな地域がネットワークする都市をめざす。
- ▼ 持続的な都市づくり  
地球環境への負荷が少ない都市構造をめざすことに加え、今後とも活発な経済活動が行われ、だれもが安心して快適にくらせる、歩いて楽しいまちをめざす。
- ▼ 京都らしさの継承・充実  
都市活力の維持向上に向け、自然や伝統文化に身近に触れられる魅力、それぞれの歴史を継承したまとまりのある地域ごとの暮らし、市民の力によるまちづくり活動など、京都が継承してきた独自性を一層充実させ、国際文化観光都市としての都市格を高める。
- ▼ 都市空間のマネジメント  
市民や事業者、NPO法人などが主体的に取り組むまちづくり活動について、行政との連携・協働に加え、自治意識や次世代の担い手育成を図るなど、都市空間のマネジメントを充実させる。

## 基本計画の名称募集

（平成22年5月～6月）応募者数123人 応募件数155件

制度上の一般名称である「基本計画」とは別に、市民に親しまれる名称を定めるため、広く名称案を募集。審査の結果、計画の名称は「はばたけ未来へ！京プラン」に決定

## 計画案に対するパブリック・コメント

(第1次案：平成22年5月～6月 応募者数322人 意見件数692件)  
(第2次案：平成22年9月 応募者数568人 意見件数964件)

審議会において計画案を公表し、市民から幅広い意見を聴取。意見聴取に当たっては、未来の担い手・若者会議U35の支援を受け、市内各所で市民と対話しながら意見を聴取する「出前パブコメ」の開催や、意見を投函していただける「パブコメ巣箱」を設置

### 「攻め」と「対話」でたくさんの御意見を聴取

「基本計画のパブコメ（＝パブリック・コメント）を集める」というミッションを与えられたパブコメ部隊。まず、対象をくパブコメを書いたことがない人>に絞り、「攻めのパブコメ」、「対話のパブコメ」と2つのテーマのもと、「パブコメくん」の制作から市内各地での意見回収箱の設置や出前パブコメなどなど…積極的な行動で第1次案では322名、第2次案では568名とたくさんの方々に御意見を頂きました。皆さんの御意見が未来をつくっていくと思うとワクワクします。

未来の担い手・若者会議U35委員パブコメ部隊リーダー さとうひさるさん（NPO法人アート・プランまぜまぜ代表）



## どうすんねん京都!?次期京都市基本計画シンポジウム

(平成22年5月) 参加者数約500人

未来の担い手・若者会議U35の企画・運営により、クイズや質問を通して来場者とパネリストが共に京都の未来を考えるシンポジウムを開催

## 市政に関係する団体からの意見聴取

(平成22年5月～6月) 聴取数144団体

第1次案に対する意見募集と合わせ、さまざまな分野の全市的規模の団体から意見を聴取

## 関係行政機関等からの意見聴取

(平成22年5月～9月) 聴取数5機関、11区基本計画策定委員会等

第1次案又は第2次案に対する意見募集と合わせ、国、京都府、京都府警察本部、近隣自治体のほか、各区の基本計画の策定委員会等から意見を聴取

## 計画案の答申

(平成22年11月4日)

多くの市民意見を受け止め、京都市基本計画審議会において、1年以上にわたって徹底した未来志向と戦略性を追求する、丹念で深い議論を重ねて計画案を取りまとめ、京都市へ答申

## 京都市としての計画案の決定

(平成22年11月4日)

市長を本部長とする京都市基本計画策定推進本部において、審議会から答申いただいた計画案を京都市の計画案として、市会へ提案することを決定

## はばたけ未来へ！ 京プラン（京都市基本計画）の議決

（平成22年12月10日）

平成22年11月市会定例会における議決を得て策定

### 京都の未来を考える 食べ物会議～自分が動けば未来が動く～

（平成23年1月） 参加者数約4500人

未来の担い手・若者会議U35による計画のキックオフイベント。計画が策定されたことを、市民の皆様「楽しく知ってもらおう」、「関心を持ってもらう」ことを目的として開催



#### 繋がりが力を生み出すまちづくりの過程を体験

どうすれば市民に基本計画を知っていただけるかを毎週議論し、プライベートでも集まるうちに、若者会議のメンバーと仲間になることができました。新しい仲間ができてすごくうれしい。イベント企画部隊のリーダーとして、個性的な皆さんをまとめるのは苦労しましたが、それゆえイベント終了後には充実感がありました。

仲間が繋がると、団結力が生まれ、市になり、府になり、国になるという、まちづくりの過程を体験しました。

未来の担い手・若者会議U35委員イベント企画部隊リーダー 竹内弘一さん（KBS京都キャスター）

## 市民の皆様と共に汗して計画を実現